

池田光子 准教授・博士(文学)	E-mail	ikedam@matsue-ct.jp
	専門分野	中国哲学・日本漢学

## 対応可能な分野

### 1. 漢文読解

『論語』や『孟子』、『墨子』など、先秦時代の中国思想関係。近世漢文。

### 2. 近世・近代漢学者関連資料の読解・調査

江戸時代後期～大正初期。

## 研究内容

### ■ 中国文化の影響

漢字・平仮名・カタカナ、故事成語や四字熟語、普段私たちが、当たり前のように使っているこれらは、中国からやってきました（平仮名・カタカナは漢字派生）。文字や言葉だけではなく、思想（考え方）もです。例えば、自分の身体を意図的に傷付けるのは、親に申し訳ないことだな、と思ったことはありませんか？ それは「孝」という中国由来の倫理思想が、根付いているからです。

このように、現在の私たちの周りを見渡してみても、中国由来のものが、散見されます。このことは、日本文化形成に際し、中国の影響が大きかったことを示しています。

面白いのは、日本人はただ受容するだけではなく、独自の発展をさせ、自分たちの文化に馴染ませていることです。

### ■ 現在の研究について

中国を代表する思想の一つに、孔子が大成した思想「儒教」があります。日本でも儒教は重視され、政治にも取り入れられていました。前述した孝の考えも、儒教由来のものです。

はじめは、中国の説をそのまま受け入れるという姿勢が強かったのですが、江戸時代に入ると、大きく変化します。単に中国の学説を受容するのではなく、孔子の真意に辿り着こうと、独自の研究が積み重ねられ、中国に逆輸入されるほどの素晴らしい成果が、多く生み出されました。

そんな江戸時代を代表する人物や学問所は多数ありますが、私が現在注目しているのは、大坂の学問所・懐徳堂です。懐徳堂は、幕府の許可を得た官許学問所ですが、元々は大坂町人たちの手によって設立した学問所です。商人の街から生まれた学問所ということもあってか、その学問の内容は、形而上学的内容も実学的な姿勢で解釈をしており、実に興味深いです。

この「懐徳堂」において、どのような学問が構築され、また後世に影響を与えていったのか。現在は、このような視点で思想研究を進めつつ、関連する未調査資料の調査も行っています。



図1「懐徳堂額字」（大阪大学蔵）

## 主な使用機器・設備など

特になし

## 産学連携に関する実績

特になし